

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	2
年組	1年1組	教科書(発行所)	高等学校 歴史総合(第一学習社)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	第1章 近代化と私たち	①歴史と私たち	○		○
5	第1節 18世紀のアジアの繁栄	②歴史の特質と資料	○		○
	第2節 産業革命と市民革命	①18世紀の東アジアの政治と国際秩序	○	○	
		②18世紀の東アジアの経済と社会	○	○	
		(中間考査)	○	○	
6		①国際商業の覇権争いと大西洋三角貿易	○		○
		②農業社会から工業社会へー産業革命	○	○	
		③アメリカ独立革命	○		○
		④フランス革命	○		○
7		⑤イギリスに挑戦したナポレオン		○	○
		⑥大西洋をこえて広がった革命	○	○	
		(期末考査)	○	○	
7	第3節 イギリスの繁栄と国民国家の拡大	①イギリスの繁栄	○		○
8・9		②後発国による「上からの近代化」	○	○	
		③ロシアの近代化と南下政策	○		
		④アメリカ合衆国の膨張	○	○	
		①オスマン帝国の衰退と西アジア			
9	第4節 アジア諸国の変貌と日本の開国	②南アジアと東南アジアの植民地化	○	○	
		③東アジアの動揺	○		○
		④東アジアの情勢と改革	○	○	
		⑤明治初期日本の外交と東アジアの国際秩序	○	○	
10	第5節 帝国主義の発展	⑥日本の立憲国家への道のり	○	○	
		①帝国主義の時代	○		○
		②列強の世界政策		○	○
		③日清戦争と中国分割	○	○	
11		④日露戦争とアジア	○		○
		⑤日本の工業化と社会運動の高揚	○		○
		⑥日本の帝国主義と東アジア	○	○	
	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち	①第一次世界大戦	○	○	
12		(期末考査)	○	○	
12	第1節 第一次世界大戦と大衆社会	②ロシア革命とソ連の成立	○	○	
1		③ヴェルサイユ＝ワシントン体制	○	○	
		④アジア諸国の独立運動	○		○
		⑤東アジアの民族運動と日本	○		○
		⑥アメリカの大衆社会	○	○	
2	第2節 経済危機と第二次世界大戦	⑦大正デモクラシーと日本社会の変化		○	○
		①世界恐慌	○	○	
		②ファシズム・軍部の台頭	○	○	
		③ファシズムの対外侵略と国際秩序の変化	○	○	
3		④日中戦争の開始と戦時体制下の日本	○	○	
		⑤第二次世界大戦の開始	○		○
		④日中戦争の開始と戦時体制下の日本	○	○	
		⑤第二次世界大戦の開始	○	○	
【備考】					
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					

学習の目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

授業の進め方

・地図や写真などを読みとる活動を通して、自然環境と人類の活動が相互に作用し合っていることに気づかせる。
 ・19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる。
 ・戦争を防止し、平和で民主的な世界を実現することが重要な課題であることを認識させる。

学習の方法

・授業で興味を持ったことや分からなかったことを記録し、自分で調べることで学習の理解を深める。
 ・知識としての暗記だけでなく、歴史的事象の背景や影響について総合的に理解する。

評価の観点

・知識・技能
 歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して読み取ったり、まとめたりしている。また、歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。
 ・思考力・判断力・表現力
 現代の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
 ・主体的に学習に取り組む態度
 世界の歴史に対する関心と課題意識を高める。

評価の方法

出席・授業態度、定期考査
 課題・ノート等の提出物
 また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	2
年組	2年2組	教科書(発行所)	高等学校 歴史総合(第一学習社)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	第1部 歴史の扉	①歴史と私たち	○		○
	第2部 近現代の世界と日本	②歴史の特質と資料	○		○
	第1章 近代化と私たち	①18世紀の東アジアの政治と国際秩序	○	○	
	第1節 18世紀のアジアの繁栄	②18世紀の東アジアの経済と社会	○	○	
5		(中間考査)	○	○	
	第2節 産業革命と市民革命	①国際商業の覇権争いと大西洋三角貿易	○		○
		②農業社会から工業社会へー産業革命	○	○	
		③アメリカ独立革命	○		○
6		④フランス革命	○		○
		⑤イギリスに挑戦したナポレオン		○	○
		⑥大西洋をこえて広がった革命	○	○	
7		(期末考査)	○	○	
7	第3節 イギリスの繁栄と国民国家の拡大	①イギリスの繁栄	○		○
8・9		②後発国による「上からの近代化」	○	○	
		③ロシアの近代化と南下政策	○	○	
		④アメリカ合衆国の膨張	○	○	
9	第4節 アジア諸国の変貌と日本の開国	①オスマン帝国の衰退と西アジア	○	○	
		②南アジアと東南アジアの植民地化	○	○	
		③東アジアの動揺	○		○
		④東アジアの情勢と改革	○	○	
10		⑤明治初期日本の外交と東アジアの国際秩序	○	○	
	第5節 帝国主義の発展	⑥日本の立憲国家への道のり	○	○	
		①帝国主義の時代	○		○
11		②列強の世界政策	○	○	
		③日清戦争と中国分割	○		○
		④日露戦争とアジア	○		○
		⑤日本の工業化と社会運動の高揚	○	○	
12		(期末考査)	○	○	
12	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち	⑥日本の帝国主義と東アジア	○	○	
	第1節 第一次世界大戦と大衆社会	①第一次世界大戦	○	○	
		②ロシア革命とソ連の成立	○	○	
1		③ヴェルサイユ=ワシントン体制	○		○
		④アジア諸国の独立運動	○		○
		⑤東アジアの民族運動と日本	○	○	
		⑥アメリカの大衆社会	○	○	
2	第2節 経済危機と第二次世界大戦	⑦大正デモクラシーと日本社会の変化	○	○	
		①世界恐慌	○	○	
		②ファシズム・軍部の台頭	○	○	
3		③ファシズムの対外侵略と国際秩序の変化	○		○
		④日中戦争の開始と戦時体制下の日本	○	○	
【備考】					
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					

学習の目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

授業の進め方

・地図や写真などを読みとる活動を通して、自然環境と人類の活動が相互に作用し合っていることに気づかせる。
 ・19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる。
 ・戦争を防止し、平和で民主的な世界を実現することが重要な課題であることを認識させる。

学習の方法

・授業で興味を持ったことや分からなかったことを記録し、自分で調べることで学習の理解を深める。
 ・知識としての暗記だけでなく、歴史的事象の背景や影響について総合的に理解する。

評価の観点

・知識・技能
 世界と日本を相互的な視野から捉え、現代の諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解し、諸資料から歴史に関する情報を調べまとめる技能を身に付けている。
 ・思考力・判断力・表現力
 歴史の変化に関わる事象の意味や意義を、概念を活用して多面的、多角的に考察したり、構想したことを効果的に説明する力を身に付けている。
 ・主体的に学習に取り組む態度
 より良い社会の実現のため課題を主体的に解決しようとする態度を身に付けている。

評価の方法

出席・授業態度、定期考査
 課題・ノート等の提出物
 また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇高等学校

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	3
年組	2年3組(文)	教科書(発行所)	歴史総合 近代から現代へ(山川出版社)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	第1章 結びつく世界	アジア諸地域の繁栄と日本	○	○	
		ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出	○	○	
	第2章 近代・ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	ヨーロッパ経済の動向と産業革命 アメリカ独立革命とフランス革命	○		○
5		19世紀前半のヨーロッパ		○	○
		(中間考査)	○	○	
		19世紀後半のヨーロッパ		○	○
		19世紀のアメリカ大陸	○	○	
		西アジアの変容と南アジア・東南アジアの植民地化	○		○
6	第3章 明治維新と日本の立憲体制	中国の開港と日本の開国	○	○	
	第4章 帝国主義の展開とアジア	明治維新と諸改革 明治初期の対外関係	○	○	
		自由民権運動と立憲体制 条約改正と日清戦争	○	○	
7		(期末考査)	○	○	
7	第5章 第一次世界大戦と大衆社会	日本の産業革命と教育の普及 帝国主義と列強の展開	○	○	
		世界分割と列強の対立	○		○
8・9		日露戦争とその影響	○	○	
		第一次世界大戦とロシア革命 国際平和と安全保障	○		○
		アジア・アフリカ地域の民族運動		○	○
9	第6章 経済危機と第二次世界大戦	大衆消費社会と市民生活の変容	○	○	
		社会・労働運動の進展と大衆の政治参加	○	○	
		世界恐慌の発生と各国の対応		○	○
		ファシズムの台頭	○	○	
10		日本の恐慌と満州事変	○	○	
	第7章 戦後の国際秩序と日本の改革	日中戦争と国内外の動き	○		○
		第二次世界大戦と太平洋戦争		○	○
		新たな国際秩序と冷戦の始まり アジア諸地域の独立	○	○	
11		占領下の日本と民主化	○	○	
		占領政策の転換と日本の独立		○	○
	第8章 冷戦と世界経済	集団防衛体制と核開発		○	○
12		(期末考査)	○	○	
12		米ソ両大国と平和共存	○		○
		西ヨーロッパの経済復興	○	○	
		第三世界の連携と試練	○	○	
1		55年体制の成立	○	○	
		日本の高度経済成長		○	○
		核戦争の恐怖から軍縮へ	○		○
		冷戦構造のゆらぎ	○	○	
2	第9章 グローバル化する世界	世界経済の転換		○	○
		アジア諸地域の経済発展と市場開放		○	○
		冷戦の終結と国際情勢	○	○	
3		ソ連の崩壊と経済のグローバル化	○		○
		開発途上国の民主化と独裁政権の動揺	○	○	
【備考】			・知識・技能 歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して読み取ったり、まとめたりしている。また、歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。 ・思考力・判断力・表現力 現代の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 ・主体的に学習に取り組む態度 世界の歴史に対する関心と課題意識を高める。		
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。			評価の方法 出席・授業態度、定期考査 課題・ノート等の提出物 また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。		

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇高等学校

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	2
年組	2年3組理系	教科書(発行所)	歴史総合 近代から現代へ(山川出版社)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	第Ⅰ部 近代化と私たち 第1章 結びつく世界 第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	アジア諸地域の繁栄と日本 ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出 ヨーロッパ経済の動向と産業革命 アメリカ独立革命とフランス革命 19世紀前半のヨーロッパ (中間考査)	○	○	○
5		19世紀後半のヨーロッパ 19世紀のアメリカ大陸 西アジアの変容と南アジア・東南アジアの植民地化 中国の開港と日本の開国	○	○	○
6	第3章 明治維新と日本の立憲体制	明治維新と諸改革 明治初期の対外関係 (期末考査)	○	○	○
7			○	○	○
7	第4章 帝国主義の展開とアジア	自由民権運動と立憲体制 条約改正と日清戦争 日本の産業革命と教育の普及 帝国主義と列強の展開 世界分割と列強の対立	○	○	○
8・9		日露戦争とその影響 第一次世界大戦とロシア革命 国際平和と安全保障 アジア・アフリカ地域の民族運動 大衆消費社会と市民生活の変容	○	○	○
9	第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会		○	○	○
10		社会・労働運動の進展と大衆の政治参加 世界恐慌の発生と各国の対応 ファシズムの台頭	○	○	○
11	第6章 経済危機と第二次世界大戦	日本の恐慌と満洲事変 日中戦争と国内外の動き 第二次世界大戦と太平洋戦争 (期末考査)	○	○	○
12			○	○	○
12	第7章 戦後の国際秩序と日本の改革	新たな国際秩序と冷戦の始まり アジア諸地域の独立 占領下の日本と民主化	○	○	○
1	第8章 冷戦と世界経済	占領政策の転換と日本の独立 集団防衛体制と核開発 米ソ両大国と平和共存 西ヨーロッパの経済復興 第三世界の連携と試練 55年体制の成立 (学年末考査)	○	○	○
2			○	○	○
3		日本の高度経済成長 核戦争の恐怖から軍縮へ 冷戦構造のゆらぎ	○	○	○
【備考】					
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					

項目
学習の目標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。
授業の進め方 ・地図や写真などを読みとる活動を通して、歴史が史料から成り立っていることに気づかせる。 ・19世紀後半から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる。 ・戦争を防止し、平和で民主的な世界を実現することが重要な課題であることを認識させる。
学習の方法 ・授業で興味を持ったことや分からなかったことを記録し、自分で調べることで学習の理解を深める。 ・知識としての暗記だけでなく、歴史的事象の背景や影響について総合的に理解する。
評価の観点 ・知識・技能 歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して読み取ったり、まとめたりしている。また、歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。 ・思考力・判断力・表現力 現代の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 ・主体的に学習に取り組む態度 世界の歴史に対する関心と課題意識を高める。
評価の方法 ・出席・授業態度、定期考査 ・課題・ノート等の提出物 上記の内容により評価する。 また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇高等学校

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	3
年組	3年1・2組	教科書(発行所)	高等学校 日本史探究(第一学習社)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	第1章 原始・古代の日本と東アジア 第1節 日本文化の黎明	①日本列島に人々がやってきた ②環境が変わり、定住生活が始まった ③農耕が始まってくらしが変わった	○	○	○
5	第2節 ヤマト政権と律令国家の形成	①列島にクニが現れた ②巨大古墳がつくられる (中間考査)	○	○	○
6		③ヤマト政権の支配が列島を覆う ④争乱のなかから国家が生まれる ⑤強力な天皇が登場する ⑥法律が人々のくらしを変える ⑦国内が不安定になり仏教に安定を求める ⑧きびしい支配のなかで懸命に生きる (期末考査)	○	○	○
7			○	○	○
7	第3節 律令国家の変容	①平安京がつくられた ②長く続く都と教えが成立した ③貴族による政治がおこなわれた ④受領によって地方支配が再編された	○	○	○
8・9	第2章 中世の日本と世界 第1節 中世への転換	①院政が始まった ②平清盛が政治権力をにぎった ③鎌倉に新たな武家政権が成立した	○	○	○
9	第2節 鎌倉幕府の展開	①鎌倉幕府の支配が広がる ②武士の土地支配が深まった ③農業が発達し、銭の流通がすすんだ ④モンゴルの脅威がせまってきた ⑤新しい仏教の教えが人々をとらえた	○	○	○
10	第3節 室町幕府の展開	①列島全体に動乱が続いた ②守護大名が台頭する ③東アジア世界と交流する ④商品の流通が活気を生んだ (期末考査)	○	○	○
11			○	○	○
12			○	○	○
12	第3章 近世の日本と世界 第1節 近世への転換	⑤団結して立ち上がる民衆 ⑥現代までつながる文化が生まれた ①各地に戦国大名が現れた ②ヨーロッパ文化の到来 ③全国統一がなされた ④秀吉が近世の扉をひらいた ①強力な江戸幕府が成立した	○	○	○
1			○	○	○
2			○	○	○
3			○	○	○
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇高等学校

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	5
年組	3年3組文系	教科書(発行所)	詳説日本史(山川出版社)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	第1章 日本文化のあけぼの	文化の始まり	○	○	○
	第2章 古墳とヤマト政権	農耕社会の成立	○	○	
	第3章 律令国家の形成	古墳文化の展開 飛鳥の朝廷	○	○	
5		律令国家への道	○	○	
		平城京の時代	○	○	
		(中間考査)	○	○	
	第4章 貴族政治の展開	律令国家の文化	○	○	○
		律令国家の変容 摂関政治	○	○	
6	第5章 院政と武士の躍進	国風文化	○	○	
	第6章 武家政権の成立	地方政治の展開と武士 院政の始まり	○	○	
		院政と平氏政権 鎌倉幕府の成立	○	○	○
7		武士の社会	○	○	
		(期末考査)	○	○	
7	第7章 武家社会の成長	モンゴル襲来と幕府の衰退	○	○	○
8・9		鎌倉文化	○	○	○
		室町幕府の成立	○	○	
9	第8章 近世の幕明け	幕府の衰退と庶民の台頭 室町文化	○	○	○
		戦国大名の登場	○	○	
	第9章 幕藩体制の成立と展開	織豊政権	○	○	
		桃山文化	○	○	
		幕藩体制の成立	○	○	
10		幕藩社会の構造	○	○	
		幕政の安定	○	○	
		経済の発展	○	○	
	第10章 幕藩体制の動揺	元禄文化	○	○	○
		幕政の改革	○	○	
11	第11章 近世から近代へ	宝暦・天明期の文化 幕府の衰退と近代への道	○	○	
	第12章 近代国家の成立	化政文化 開国と幕末の動乱	○	○	
	第13章 近代国家の展開	幕府の滅亡と新政府の発足 明治維新と富国強兵	○	○	
12		立憲国家の成立 日清・日露戦争と国際関係	○	○	
		(期末考査)	○	○	
12	第15章 恐慌と第二次世界大戦	第一次世界大戦と日本 ワシントン体制	○	○	○
1		近代産業の発展	○	○	○
		近代文化の発達	○	○	
	第16章 占領下の日本	市民生活の変容と大衆文化 恐慌の時代	○	○	
		軍部の台頭	○	○	
2		第二次世界大戦 占領と改革	○	○	
		(学年末考査)	○	○	
3					
【備考】					
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					

学習の目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

授業の進め方

古代・中世・近世の日本の歴史を中心に授業を進めるが、世界の歴史と関連させて総合的に考察する。
文献・絵画・実物教材などの資料を活用しながら、歴史的事象を理解する方法を身に付ける。

学習の方法

・授業で興味を持ったことや分からなかったことを記録し、自分で調べることで学習の理解を深める。
・知識としての暗記だけでなく、歴史的事象の背景や影響について総合的に理解する。

評価の観点

・知識・技能
歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して読み取ったり、まとめたりしている。また、歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。
・思考力・判断力・表現力
現代の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
・主体的に学習に取り組む態度
世界の歴史に対する関心と課題意識を高める。

評価の方法

・出席・授業態度、定期考査
・課題・ノート等の提出物
上記の内容により評価する。
また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	地理歴史	科目	地理探究	単位数	3
年組	3年2組・3組理系	教科書(発行所)	地理探究(二宮書店)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	第1章 自然環境 ①地形	世界の地形 プレート運動と影響	○	○	
	②気候と生態系	地震と火山 造山運動 河川がつくる地形	○	○	
	③世界各地の自然と生活	海岸地形 さまざまな地形 水の循環	○	○	
5	④日本の自然環境と防災	海洋循環 大気の大循環 気候の地域性	○	○	
	⑤地球環境問題	植生と土壌 世界の気候 熱帯	○	○	
		(中間考査)	○	○	
6	第2章 資源と産業 ①農林水産業	乾燥帯 温帯 亜寒帯と寒帯 日本の地形	○	○	
	②資源・エネルギー	日本の気候 日本の防災 環境問題大観		○	○
		越境汚染 地球温暖化 温暖化への対策		○	○
		農業の諸条件 農業の変化 グローバル化	○	○	
		林業 水産業 食料問題 社会の発展と資源	○		○
7		鉱産資源 エネルギー資源と課題 電力の利用	○		○
		(期末考査)	○	○	
7	③工業	社会の発展と工業 工業立地 工業地域	○	○	
	④第3次産業	自動車工業 国際分業 グローバル化 サービス経済		○	○
8・9	第3章 人・モノ・金 ①交通・通信	交通 通信 貿易 貿易の課題		○	○
	②貿易・観光	資金の流れ 観光と課題 人口推移と分布	○	○	
9	第4章 人口、村落・都市 ①人口	人口構成 人口移動 人口問題	○	○	
	②村落・都市	集落の成り立ち 都市の成り立ち 都市・居住問題	○	○	
	第5章 文化と国家 ①生活文化	生活文化 衣服 食生活 住居		○	○
	②国家とその領域	言語 宗教 国家と領域 民族・領土問題	○	○	
10	第1章 地域区分 ①中国	日本の領土問題 海洋国家日本 国際連合	○	○	
	②朝鮮半島	改革開放 人口 農業の地域性	○	○	
	③東南アジア	産業と生活 経済成長と課題 朝鮮半島	○	○	
		文化と経済発展 国際関係 多民族文化		○	○
11	④南アジア	自然環境と農業 工業化 地域内外の経済	○	○	
	⑤西アジア・中央アジア	自然環境と人口 住民と文化 農業 産業	○	○	
	⑥北アフリカ・サブサハラアフリカ	自然環境 民族 資源開発 地域紛争	○		○
12		自然環境 歴史 産業 地域紛争	○		○
		(期末考査)	○	○	
12	⑦ヨーロッパ	地域統合と文化の多様性 農業	○		○
	⑧ロシア	工業と貿易 変化と課題 自然環境と民族	○		○
	⑨アングロアメリカ	産業の変化 世界の結びつき 自然環境	○	○	
1	⑩ラテンアメリカ	多文化社会 産業 世界の結びつき	○	○	
	⑪オーストラリア ⑫ニュージーランド	自然環境 民族と都市 鉱工業 政治経済	○	○	
		農・工業 多文化主義 世界との結びつき ニュージーランド	○	○	
		(学年末考査)	○	○	
2					
3					
【備考】					
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					

学習の目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

授業の進め方

教科書、資料集を読み込み、ワークブックや要点ノートにまとめ、演習問題を通じて知識の定着を図る。
また、作図や資料から当該地域の特色や課題を読み取り、解決の方向性や将来の在り方を考える。

学習の方法

予習として、教科書を読み疑問点を明らかにしておく。授業時や復習時には、ノートだけでなく資料集も参考に理解を深め、問題演習を通して知識の定着を図る。また、地図帳を有効に活用し、地球の中での位置がイメージできるようにしておく。
地形や気候、そこに住む人々の歴史や生活等に着目して現代社会における諸課題を捉えてほしい。

評価の観点

・知識・技能
地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
・思考・判断・表現
地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して系統地理的、地誌的に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や考察、構想したことを効果的に説明したり、それらに基づき議論したりする力を養う。
・主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛憎、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

評価の方法

・定期考査の得点
・小テストの得点
・授業への参加態度
・課題の提出状況
上記の内容により評価する。
また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇高等学校

教科	公民	科目	公共	単位数	2
年組	1年1組	教科書(発行所)	高等学校 新公共(第一学習社)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	1編1章 公共的空間と私たち	①社会に生きる私たち ②個人の尊厳と自主・自立 ③多様性と共通性 ④伝統文化 ⑤自立した主体をめざして	○	○	○
5	2章 人間としてのあり方生き方 3章 公共的空間での基本的原理	①人間と社会のあり方についての見方・考え方 ①人間の尊厳 ②民主主義と法の支配	○	○	○
6	2編1章 法的な主体となる私たち 1 法や規範の意義と役割	③自由・権利と責任・義務 ④日本国憲法 ①私たちと法 ②法と基本的人権 ③④自由、平等に生きる権利と法・規範	○	○	○
7	2 契約と消費者の権利・責任 3 司法参加の意義	⑤安全に生きる権利 ⑥法をよりよいものに ①さまざまな契約と法 ②消費者の権利と責任 ①裁判所と司法 ②国民の司法参加	○	○	○
7	2章 政治的な主体となる私たち 4 政治参加と公正な世論形成	①私たちと選挙 ②選挙の現状と課題 ③世論の形成と政治参加 ④国会と立法 ⑤内閣と行政 ⑥地方自治と住民福祉	○	○	○
8・9	5 国際社会と国家主権 6 日本の安全保障と防衛	①国家と国際法 ②国境と領土問題 ③国際連合 ①平和主義と安全保障 ②日本の安全保障体制	○	○	○
9	7 国際社会の変化と日本の役割	③核兵器と国際平和 ①今日の国際社会 ②人種・民族問題 ③国際社会における日本	○	○	○
10	3章 経済的な主体となる私たち 8 雇用と労働問題	①私たちと経済 ②労働者と権利 ③労働環境と課題	○	○	○
11	9 社会の変化と職業観	①日本経済 ②技術革新の進展 ③現代企業 ④中小企業 ⑤日本の農林水産業	○	○	○
12		①市場経済と経済運営 ②市場のしくみ ③経済発展と環境	○	○	○
12	11 金融のはたらき	④国民所得と生活 ⑤経済成長と国民の福祉 ①金融の意義 ②金融のいま	○	○	○
1	12 財政の役割と社会保障	①財政のしくみと租税 ②日本財政の課題 ③社会保障と国民福祉	○	○	○
2	13 経済のグローバル化	④これからの社会保障 ①国際分業 ②国際収支と国際経済 ③外国為替相場 ④グローバル化する経済 ⑤地域的経済統合 ⑥国際社会の貧困や格差 ⑦環境問題	○	○	○
3	3編 ケーススタディ	⑧資源・エネルギー問題 ⑨国際社会 ④インターネット投票 ⑤フェアトレード 1年間の振り返り	○	○	○
【備考】			※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。		

学習の目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追及したり解決したりする活動を通して広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

授業の進め方

教科書内容の読み、問題演習を中心に知識の定着を図る。グループワークでは自身の考えを述べるなど主体的・協同的な参加が望まれる。今後私たちが直面する諸課題を解決するためには、どんな手立てが効果的かを積極的に考える力を養っていく。

学習の方法

教科書に沿って授業を進める。その際、授業プリントを使用するので、丁寧に記入すること。ペアワークやグループワークでは、積極的に意見交換ができるよう、自分の考えを持ち、それを深める姿勢が求められる。授業での疑問点はそのままにせず、必ず質問すること。

評価の観点

・知識・技能
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から倫理的主体などとして活動するために必要な情報を適切かつ効果的に調査する力を養う。
・思考・判断・表現
現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
・主体的に学習に取り組む態度
よりよい社会の実現に向け、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を身に付ける。

評価の方法

・定期考査の得点
・授業への参加態度
・課題の提出状況
・また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	公民	科目	公共	単位数	2
年組	1年2、3組	教科書(発行所)	高等学校 公共(第一学習社)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	1編1章 公共的空間と私たち	①社会に生きる私たち ②個人の尊厳と自主・自律 ③多様性と共通性 ④キャリア形成と自己実現 ⑤伝統や文化とのかかわり	○	○	○
5	2章 人間としてのあり方生き方	①人間と社会のあり方についての方見方・考え方 ②環境保護 ③生命倫理	○	○	○
6	3章 公共的空間での基本的原理	①人間の尊厳と平等 ②個人の尊重 ③民主政治の基本的原理 ④法の支配 ⑤自由・権利と責任・責務 ⑥世界の主な政治体制 ⑦日本国憲法に生きる基本的原理	○	○	○
7	2編1章 法的な主体となる私たち 1 法や規範の意義と役割	①私たちの生活と法 ②法と基本的人権 ③自由、平等に生きる権利と法 ④法をよりよく変えていくために	○	○	○
学習の目標 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 授業の進め方 教科書内容の読み込み、問題演習を中心に知識の定着を図る。グループワークでは自身の考えを述べるなど主体的・協同的な参加が望まれる。今後直面する諸課題を解決へと導く手立てとしてほしい。 学習の方法 教科書に沿って授業を進める。その際、授業プリントを使用するのと、丁寧記入すること。ペアワークやグループワークでは、積極的に意見交換ができるよう、自分の考えを持ち、それを深める姿勢が求められる。授業での疑問点はそのままにせず、必ず質問すること。 評価の観点 ・知識・技能 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から倫理的主体などとして活動するために必要な情報を適切かつ効果的に調査する力を養う。 ・思考・判断・表現 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 ・主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現に向け、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を身に付ける。 評価の方法 ・定期考査の得点 ・授業への参加態度 ・課題の提出状況 ・また、観点別評価（A・B・C）と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。					
7	2 契約と消費者の権利・責任 3 司法参加の意義 2章 政治的な主体となる私たち	①さまざまな契約と法 ②消費者の権利と責任 ①裁判所と人権保障 ①選挙の意義と課題 ②政治参加と世論形成	○	○	○
8・9	4 政治参加と公正な世論形成	③国会と立法 ④内閣と行政の民主化 ⑤地方自治と住民の福祉	○	○	○
9	5 国際社会と国家主権	①国家と国際法 ②国境と領土問題 ③国際連合の役割と課題	○	○	○
10	6 日本の安全保障と防衛 7 国際社会の変化と日本の役割	①平和主義と安全保障 ②核兵器の廃絶と国際平和 ①今日の国際社会 ②人種・民族問題と地域紛争 ③国際社会における日本	○	○	○
11	3章 経済的な主体となる私たち 8 雇用と労働問題 9 社会の変化と職業観	①私たちと経済 ②労働者の権利と労働問題 ①技術革新の進展と産業構造の変化 ②企業の活動 ③農林水産業の現状とこれから	○	○	○
12	10 市場経済の機能と限界	①市場経済と経済運営 ②市場経済のしくみ	○	○	○
12	11 金融のはたらき 12 財政の役割と社会保障	③経済発展と環境保全 ④経済成長と国民福祉 ①金融の意義や役割 ①政府の経済的役割と租税の意義 ②社会保障と国民福祉	○	○	○
1	13 経済のグローバル化	①国際分業と国際貿易体制 ②国際収支と為替相場 ③経済のグローバル化と日本 ④地域的統合の動き ⑤国際社会における貧困や格差 ⑥地球環境問題 ⑦資源・エネルギー問題 ⑧国際社会のこれから	○	○	○
2			○	○	○
3	3編 ケーススタディ	①地球環境問題 ②資源・エネルギー問題 ③生命倫理 ④情報 ⑤国際社会の課題	○	○	○
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇高等学校

教科	公民	科目	公共	単位数	2
年組	2年1・2組	教科書(発行所)	高等学校 新公共(第一学習社)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	1編1章 公共的空間と私たち	①社会に生きる私たち	○	○	○
		②個人の尊厳と自主・自立 ③多様性と共通性	○	○	
	2章 人間としてのあり方生き方	④伝統文化 ⑤自立した主体をめざして	○	○	
	3章 公共的空間での基本的原理	①人間と社会のあり方についての方見方・考え方	○	○	
5		①人間の尊厳 ②民主主義と法の支配	○	○	
		③自由・権利と責任・義務 ④日本国憲法	○		
	2編1章 法的な主体となる私たち	①私たちと法 ②法と基本的人権	○		
	1 法や規範の意義と役割	③④自由、平等に生きる権利と法・規範	○		
6		⑤安全に生きる権利 ⑥法をよりよいものに	○		
	2 契約と消費者の権利・責任	①さまざまな契約と法 ②消費者の権利と責任	○	○	
	3 司法参加の意義	①裁判所と司法 ②国民の司法参加	○	○	
7					
7	2章 政治的な主体となる私たち	①私たちと選挙 ②選挙の現状と課題	○		○
	4 政治参加と公正な世論形成	③世論の形成と政治参加 ④国会と立法	○	○	
		⑤内閣と行政 ⑥地方自治と住民福祉	○	○	
8・9					
	5 国際社会と国家主権	①国家と国際法 ②国境と領土問題	○	○	
	6 日本の安全保障と防衛	③国際連合 ①平和主義と安全保障	○		○
9		②日本の安全保障体制	○	○	
	7 国際社会の変化と日本の役割	③核兵器と国際平和 ①今日の国際社会	○	○	
		②人種・民族問題 ③国際社会における日本	○	○	
10	3章 経済的な主体となる私たち	①私たちと経済	○	○	
	8 雇用と労働問題	②労働者と権利 ③労働環境と課題	○		○
	9 社会の変化と職業観	①日本経済	○		
		②技術革新の進展 ③現代企業	○		
11		④中小企業 ⑤日本の農林水産業	○		
		①市場経済と経済運営	○	○	
		②市場のしくみ ③経済発展と環境	○	○	
12					
12	11 金融のはたらき	④国民所得と生活	○	○	
		⑤経済成長と国民の福祉 ①金融の意義	○	○	
		②金融のいま	○	○	
1	12 財政の役割と社会保障	①財政のしくみと租税	○	○	
		②日本財政の課題 ③社会保障と国民福祉	○	○	
	13 経済のグローバル化	④これからの社会保障 ①国際分業	○		○
		②国際収支と国際経済 ③外国為替相場	○	○	
		④グローバル化する経済	○		
2		⑤地域的経済統合	○		
		⑥国際社会の貧困や格差 ⑦環境問題	○	○	
		⑧資源・エネルギー問題 ⑨国際社会	○	○	
3	3編 ケーススタディ	④インターネット投票 ⑤フェアトレード	○	○	
		1年間の振り返り	○	○	
【備考】			※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。		

学習の目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追及したり解決したりする活動を通して広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

授業の進め方

教科書内容の読み、問題演習を中心に知識の定着を図る。グループワークでは自身の考えを述べるなど主体的・協同的な参加が望まれる。今後私たちが直面する諸課題を解決するためには、どんな手立てが効果的かを積極的に考える力を養っていく。

学習の方法

教科書に沿って授業を進める。その際、授業プリントを使用するので、丁寧に記入すること。ペアワークやグループワークでは、積極的に意見交換ができるよう、自分の考えを持ち、それを深める姿勢が求められる。授業での疑問点はそのままにせず、必ず質問すること。

評価の観点

・知識・技能
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から倫理的主体などとして活動するために必要な情報を適切かつ効果的に調査する力を養う。
・思考・判断・表現
現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
・主体的に学習に取り組む態度
よりよい社会の実現に向け、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を身に付ける。

評価の方法

・定期考査の得点
・授業への参加態度
・課題の提出状況
・また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	公民	科目	公共	単位数	2
年組	2年3組	教科書(発行所)	高等学校 公共(第一学習社)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	態
4	1編1章 公共的空間と私たち	①社会に生きる私たち ②個人の尊厳と自主・自律 ③多様性と共通性 ④キャリア形成と自己実現 ⑤伝統や文化とのかかわり	○	○	○
5	2章 人間としてのあり方生き方	①人間と社会のあり方についての方見方・考え方 ②環境保護 ③生命倫理	○	○	○
6	3章 公共的空間での基本的原理	①人間の尊厳と平等 ②個人の尊重 ③民主政治の基本的原理 ④法の支配 ⑤自由・権利と責任・責務 ⑥世界の主な政治体制 ⑦日本国憲法に生きる基本的原理	○	○	○
7	2編1章 法的な主体となる私たち 1 法や規範の意義と役割	①私たちの生活と法 ②法と基本的人権 ③自由、平等に生きる権利と法 ④法をよりよく変えていくために	○	○	○
教科書内容の読み込み、問題演習を中心に知識の定着を図る。グループワークでは自身の考えを述べるなど主体的・協同的な参加が望まれる。今後直面する諸課題を解決へと導く手立てとしてほしい。					
7	2 契約と消費者の権利・責任 3 司法参加の意義	①さまざまな契約と法 ②消費者の権利と責任 ①裁判所と人権保障	○	○	○
8・9	2章 政治的な主体となる私たち 4 政治参加と公正な世論形成	①選挙の意義と課題 ②政治参加と世論形成 ③国会と立法 ④内閣と行政の民主化 ⑤地方自治と住民の福祉	○	○	○
9	5 国際社会と国家主権	①国家と国際法 ②国境と領土問題 ③国際連合の役割と課題	○	○	○
10	6 日本の安全保障と防衛 7 国際社会の変化と日本の役割	①平和主義と安全保障 ②核兵器の廃絶と国際平和 ①今日の国際社会 ②人種・民族問題と地域紛争 ③国際社会における日本	○	○	○
11	3章 経済的な主体となる私たち 8 雇用と労働問題 9 社会の変化と職業観	①私たちと経済 ②労働者の権利と労働問題 ①技術革新の進展と産業構造の変化 ②企業の活動 ③農林水産業の現状とこれから	○	○	○
12	10 市場経済の機能と限界	①市場経済と経済運営 ②市場経済のしくみ	○	○	○
12	11 金融のはたらき 12 財政の役割と社会保障	③経済発展と環境保全 ④経済成長と国民福祉 ①金融の意義や役割 ①政府の経済的役割と租税の意義 ②社会保障と国民福祉	○	○	○
1	13 経済のグローバル化	①国際分業と国際貿易体制 ②国際収支と為替相場 ③経済のグローバル化と日本 ④地域的統合の動き ⑤国際社会における貧困や格差 ⑥地球環境問題 ⑦資源・エネルギー問題 ⑧国際社会のこれから	○	○	○
2			○	○	○
3	3編 ケーススタディ	①地球環境問題 ②資源・エネルギー問題 ③生命倫理 ④情報 ⑤国際社会の課題	○	○	○
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					
・知識・技能 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から倫理的主体などとして活動するために必要な情報を適切かつ効果的に調査する力を養う。 ・思考・判断・表現 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 ・主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現に向け、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を身に付ける。					
・定期考査の得点 ・授業への参加態度 ・課題の提出状況 ・また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。					

令和7年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	公民	科目	政治経済	単位数	2
年組	3年2・3組文系	教科書(発行所)	高等学校 政治・経済(第一学習社)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点		
			知	思	能
4	第1編 現代日本の政治・経済の諸課題	①政治と法の意義と機能	○	○	
	第1章 現代日本の政治・経済	②法の支配と立憲主義	○		
	第1節 日本国憲法と現代政治のあり方	③基本的人権の保障と日本国憲法	○	○	
		④現代社会における新しい人権	○		○
5		⑤権利と義務との関係	○	○	
		⑥議会制民主主義と世界の政治体制	○	○	
		⑦国会の組織と立法	○		○
		⑧内閣の機構と行政	○	○	
		⑨裁判所の機能と司法制度	○		○
6	第2節 望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方	①地方自治制度と住民の権利	○	○	
		②政党政治と選挙	○	○	
	第3節 市場経済の機能と限界	①経済活動と市場	○	○	
7		②経済主体と経済循環	○	○	
教科書内容の読み込み、問題演習を中心に知識の定着を図る。グループワークでは自身の考えを述べるなど主体的・協同的な参加が望まれる。今後直面する諸課題を解決へと導く手立てとしてほしい。					
7		③国民経済の大きさと経済成長	○		○
8・9		④物価と景気変動	○	○	
9	第4節 持続可能な財政および租税のあり方	⑤市場の失敗と公害・消費者問題	○	○	
	第5節 金融を通じた経済活動の活性化	①財政のしくみと租税の意義	○		○
	第6節 経済活動と福祉の向上	①金融のしくみとはたらき	○	○	
		①日本経済の変化と中小企業・農業問題	○	○	
		②労使関係と労働問題	○	○	
10	第2編 グローバル化する国際社会の諸課題	③社会保障制度と福祉のあり方	○	○	
	第1章 現代の国際政治・経済	①国際社会の変遷	○		○
	第1節 国際法の果たす役割	②国際法の意義	○		○
		③国際機構の役割	○	○	
		④国際紛争と軍縮への取り組み	○	○	
11	第2節 国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割	①日本の安全保障と国際貢献	○		○
	第3節 相互依存関係が深まる国際経済の特質	①貿易の現状と意義	○	○	
		②国民経済と国際収支	○	○	
12		③為替相場の変動	○	○	
・知識・技能 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題を解決探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解している。 ・思考力・判断力・表現力 国家及び社会の形成者として必要な判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる課題について説明することができる。 ・主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。					
12	第4節 国際経済において求められる日本の役割	④国際協調と国際経済機関の役割	○		○
	第2章 国際社会の諸課題の探究	①国際経済における日本の地位と国際協力	○	○	
1		1 グローバル化にともなう人々の生活や社会の変容	○		○
		2 地球環境と資源・エネルギー問題	○		○
		3 国際経済格差の是正と国際協力	○	○	
		4 イノベーションと成長市場	○	○	
		5 人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取り組み	○	○	
2					
3					
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。					
・定期考査の得点 ・小テストの得点 ・授業への参加態度 ・課題の提出状況 ・また、観点別評価(A・B・C)と100点法による評価を行い、学年末において5段階評定に総括する。					